

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0191400324), 法人名 (株式会社 秀), 事業所名 (グループホームまつかけ ほほえみユニット), 所在地 (函館市松陰町15番5号), 自己評価作成日 (令和4年5月3日), 評価結果市町村受理日 (令和4年9月2日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「一行日記」を開設以来継続実施している。一日の生活の特徴的な様子を一行にまとめ一行日記として毎月月初めにご家族にお送りしている。介護員の手書きによるものでご家族からは生活の様子がよくわかると喜ばれ楽しみにしている。
・立地条件が良好である。史跡五稜郭に近く、函館市の中心部の閑静な住宅地に位置し、市電、バスの公共交通機関のアクセス、利便性も良い。五稜郭公園や桜ヶ丘通りなど桜の名所もホームから近く散歩できる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0191400324-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年7月4日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市の中心部である五稜郭に程近い歴史ある松陰地区に位置し、買い物や交通に便利な環境下に立地している。職員は日々の業務において、運営理念、短期目標の達成具合を介護記録に記入する試みを実践しながら、職員間で「その人らしく、安心して生活出来るよう」検討し、現状に即したケアプランとなるよう努めている。利用者家族には、電話連絡の他、開設から継続している「一行日記」を月例で送付しており、日常生活における何気ないシーン、健康状態等を詳細に伝えており、好評を得ている。地域とは現在、自粛傾向であるが、通例では地域密着型サービスとして、相互の協力関係に注力しており、行事・町内会活動への積極的参加や福祉に関する相談に応じる等で連携を深めている。今後も利用者個々の心を見つめ、安堵した生活となるよう、変わらぬ尽力に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	館内に理念を掲示、地域に根差した心地よい家庭的な環境の中で共に生きるパートナーとの基本理念を共有している。安堵した生活ができるよう一人ひとりの心を見つめるケアと楽しく豊かな生活の提供を目指している。	事業所理念を目立つ場所に掲示し、日常的に共有している。管理者を中心に、申し送りや会議の場で理解を深め、日々その実践に努めるよう指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、資源回収等に参加協力をし交流を図っている。近隣住民と顔なじみの関係ができています。	現在は相互に往來を自粛しているが、通例では地域代表の運営推進会議への参加や、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。町内の資源回収には現在も参加出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事に参加していただき認知症を含め事業所に対する理解を深めていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催を予定している。愛称を「まつかけ元気会」と称し町会、包括支援センター、ご家族が参加しホームの活動状況を報告し意見交換、助言を頂きサービスの向上に努めている。新型コロナウイルス拡大のため当面の間開催を延期している。	通例では、管理者を中心に家族、地域代表、包括支援センターが参加し、定例で開催している。運営状況や現状の問題点まで論議されており、メンバーから意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当部署とは日頃より必要に応じて情報交換を行い、指導助言を受けるなど協力関係を築くよう努めている。	市窓口からは、定例の運営状況報告の他、メール・電話での相談や実地指導の場で、随時助言・アドバイスを受けており、信頼性のある関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料の配布のほか、職員会議等で身近に起こりうる問題を話し合い身体拘束防止に努めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、虐待も含め、具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待問題は身体拘束と表裏一体の関係にあり、拘束同様、職員会議での話し合いや市やGH協会主催の研修会への参加などで学ぶ機会とし未然防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については制度を利用されている方がおり、このケースを通して制度や権利擁護について周知をはかっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については入居時に内容の十分な説明をし、理解、納得をされ同意を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ご要望、苦情に対する窓口を設け、随時対応している。面会時の面談、運営推進会議の席上、利用者様ご家族様からの意見要望を聴き改善に向けた取り組みを行っている。ご意見箱も設置し自由に投函できる。	面会はガラス越しや玄関、敷地内等、多様な方法について職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら、弾力的に再開し、意見聴取の機会を持っている。担当者による一行日記で、個別の生活状況・健康状態について、詳細に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットミーティング、定例職員会議を開催している。また必要に応じてグループ施設の管理者と協議、情報交換をし職員の意見提案を聴く機会としている。	主に月例のミーティングや職員会議の場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が随時相談に応じる等、話しやすく、働きやすい環境作りにも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に対し業務報告をすると共に業務打ち合わせをし指示を受けている。職場環境を改善するよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用時は先輩の職員に同行して実務研修をしている。内部ではミニ研修会と称して短時間で身近なテーマで学ぶ場をつくっている。外部研修については南北海道GH協会等の研修会に参加予定であるが新型コロナウイルスの感染状況により中止もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協会に加入している。同協会主催の研修会に参加し交流、情報交換を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や入居時に本人や家族と面談をする事により、要望や意向の理解や把握に努め、安心して過ごせる環境を提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や入居時にご家族との話し合いを重ね、相互理解、確認をし、信頼関係の構築に取り組んでいる。ご家族だからこそ持つ感情を尊重し受け止めている。迅速な報告連絡を密接にし信頼関係を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、入居前のケアマネ、医療機関、関係者等から情報収集し全体像の把握と分析をし本人が必要としている事、家族が望む支援を見極め安心安堵の生活が出来るようサービスの提供に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは大きな疑似家族ととらえ、暮らしを共にするパートナーと考えている。居室にとじこもらないよう対話、傾聴など関わりをもつよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居によって家族関係が希薄になったり終わるものではなく、いままで身近で関わった家族と、これから関わっていく職員とは本人を中心に家族(地域)とホームは自動車の両輪のような関係で共に手を取りあい支えて歩んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会、電話等、馴染みの生活を継続できるよう支援している。新型コロナのため、面会はガラス戸越しで行なっている。	通例では、馴染み希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て、支援している。コロナ禍において、現在は時間を制限しての面会としたり、電話連絡の頻度を上げることで、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状態に応じて、座席を配慮するなど関係作りを考慮している。また職員が利用者様との交流の中に介入しお互いの関係について把握し、関係作りに取り組んでいる。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等によりサービスが終了しても御見舞いや連絡をとっている。家族会行事にも会友として参加を呼びかけ関係を継続できる体制にあり、ご縁を大切に癒し癒される関係作りに取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族、関係者から情報収集し検討している。会話の中や表情などから暮らし方の希望を汲み取る努力をしている。	利用者本人より終末期の意向も含め、思いを聞き取り、記録・共有している。家族からも情報を得て、定期的にあセスメントを行い、プラン化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の様子をご家族、他施設、ケアマネなどの関係者から情報収集し全体像を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や入居前の状況、本人とのかかわりの中で情報の把握に努めている。職員は実際に状況を目と耳で確認点検するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは期間による更新及びカンファレンスや入院による状態変化に伴い必要に応じて変更している。いずれの場合も職員の意見、家族、本人の意向を参考に取り入れている。	管理者、介護支援専門員を中心に、職員間でモニタリング結果を検証して、本人・家族の要望や職員、医療機関の意見を反映した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご家族には一日の生活の様子を一行にまとめた「一行日記」を毎月郵送し喜ばれている。職員は日誌、連絡ノートなどの記録、申し送りを大切に、ケアの見直し、確認、情報共有に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて随時相談、できる限り対応支援している。状況勘案の上、できるだけ柔軟に対応、そのときを大切に一瞬を大事にしたいと考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを積極的に受け入れ、毎月定例の本の読み聞かせの会、カラオケグループによる歌謡ショー、イベント出演の合唱団など色々な方にホームに来ていただいていたが、現在は新型コロナ禍のため休止している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医療機関への受診希望があれば適切に医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医からホームの協力医療機関への診療情報の提供もスムーズに行われている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。医療機関からの訪問診療、訪問看護の協力体制があり、受診内容については記録を基に職員間で共有し、家族にも詳細に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制に基づく訪問看護ステーションと連携している。週1回の訪問では介護員が入居者の健康上気になること、変化などについて相談、助言をうけ、必要に応じ看護師から主治医へ報告する。定期的な健康管理のほか365日24時間体制で対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に対し情報提供(交換)をしスムーズに治療に専念できるよう支援する。病状伺いにより病状の確認、家族の意向を尊重し早期に退院できるように、また転院などについても主治医、家族、ホームの3者で話し合い、よりよい選択ができるよう相談支援している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にある程度の説明をし家族の意向も確認する。実際にその状況になったとき、本人、家族の意向を尊重し、主治医、看護師、職員が連携を取り、ホームが出来る事を説明しながら方向性を職員間で共有している。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、職員間で情報共有に努め、取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを活用している。日常的に訪問看護師から指導助言を受けて身につけてきている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は基本的に春と秋の年2回計画している。消防署員も立会い指導助言を頂いている。またスプリンクラー、報知器等の消防設備も確実に点検整備している。新型コロナ禍のため延期している。	火災を想定した避難訓練を定例で実施している。地域、近隣住民との協力体制と消防設備の確認を行い、不意の災害に備えている。	自然災害に関する避難訓練の充実と家族、関係者への避難場所の周知を検討している。計画の進展に期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの際に用いる言葉には充分気をつけている。誤解からくる怒りや悲しみを感じさせないこと、尊厳を大切にすることを職員に確認している。	職員は、接遇が介護の基本であることを理解し、声掛け、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思確認をし、馴染みのある家具、生活用品を持参していただいたり、危険がない範囲で思い通りに生活できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事所要時間など、ある程度個人のペースを守っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容室を利用し好みの髪型にし、服装も本人、ご家族の希望により着用している。また行事の時には化粧をすることもある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居年数とともに身体機能が低下し、食事形態も常食、粥、きざみ、ミキサー、トロミ付など利用者の状態に応じて提供している。献立は利用者の好みや季節の旬の食材を取り入れている。行事食にも工夫をしている。	献立は利用者の希望を取り入れており、季節感・彩りを大切にしている。可能な利用者には配膳準備・片付けなどを手伝ってもらい、楽しみながら力を活かせるよう支援している。外出が難しい現在は、行事食、テイクアウトで外食気分を楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給に留意し摂取量、食事量を記録し過不足なく摂取できるようにしている。気になる方は主治医や看護師に報告連絡、相談している。通年で脱水症ゼロを目指す。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア支援をしている。利用者によっては口腔内清拭も行う。義歯も洗浄し、就寝時は義歯洗浄剤使用にて除菌洗浄対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレの声掛けや誘導を行い失禁やおむつの使用率が少しでも軽減できるよう排泄の自立に努めている。排泄の失敗に対しても自尊心に配慮し対応している。	個々のタイミングを時間で把握し、声掛けを工夫しながらトイレへの誘導を行っている。羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時の水分補給だけではなく随時水分摂取していたりしている。また毎朝ラジオ体操を行い、身体を動かすことを習慣化している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大浴場とユニットバスの2タイプの浴室がある。身体状況を考慮して支援している。入浴日は週2回となっているが、身体汚染、タイミングなどによっては個々に応じた支援も可能である。	週2回の入浴を支援している。拒否がある人には時間・日程を変更し、本人の状態や希望に応じて、柔軟な対応に努めている。同性介助の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後のお昼寝、身体の状態によっては安静が保てるように配慮している。また、シーツ、枕カバー、衣類を随時交換し、いつも清潔なものを着用していたりよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前、用法、用量の確認をし誤薬には充分注意している。また飲み込みまで確認。薬情報紙をファイルに綴り薬の目的、副作用などを周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望や興味関心のあることを把握して生活に潤いと活気をもたらしている。ぬり絵、ジグソーパズルを楽しんで生き甲斐にしている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春と秋に季節の移り変わりを感じられるようにドライブをはじめ利用者の希望を把握し外出機会を作るよう努めている。利用者の身体状況、機能低下などにより長時間の外出が困難な方もおり考慮している。現在新型コロナウイルス感染拡大のため外出は自粛している。	通例では個別に声がけし、日課として出歩くように努め、近隣へ買い物やドライブに出かけている。現在は、敷地内での外気浴や、室内でのレクに運動を取り入れ、気分転換や心身の機能維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる利用者は殆どおらず、ホーム管理、家族対応で買い物されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話室が設置されており、自由に利用できる。また子機を利用して居室でも送受信できる。手紙の代筆代読も要望があれば行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、天井高く、リビング広く開放的である。季節感を取り入れるため行事に合わせた飾りや写真を提示している。利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。職員は笑顔あふれる明るいホームを目指している。	陽当たりの良いリビングを中心に、和める雰囲気づくりに留意して、寛げる備品の配置や季節に合わせた飾り付けをしている。また、温・湿度の管理や換気等、健康に配慮した空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態、状況に合わせて席を配慮し、安心できるような居場所作りに取り組んでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には以前から使用していた馴染みの家具や身の回り品を家族に持参していただくよう伝え、慣れ親しんだ雰囲気をかもし出せるよう支援している。安心安全な環境で落ち着いて生活できることを願っている。	居室には、自宅から使い慣れた家具や生活雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、自室として、安全に安心して過ごせる環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー化され、歩行に不安のある方も手すりを使用し生活している。廊下幅も広く車椅子使用にも支障がない。		